第５回府中市生涯学習審議会会議録

１　日　時　令和２年７月１７日（金）午前１０時～１２時
２　場　所　府中駅北第２庁舎３階　会議室
３　出席者（敬称略）
⑴　委員１４名
岩久保早苗委員、大谷久知委員、乙津俊博委員、木内直美委員、佐野洋委員、田頭隆徳委員、津田仁委員、友田照子委員、中村紀子委員、長畑誠委員、福田豊委員、藤井孝弘委員、渡邊和子委員、渡辺たき子委員
※立石朝美委員欠席
⑵　職員６名
関根文化スポーツ部長、二村文化生涯学習課長、楠本文化生涯学習課長補佐、柏木生涯学習係長、諫山事務職員、山本事務職員

４　報告事項
⑴　配布資料の確認
ア　資料１　府中市生涯学習審議会（令和元年度第４回）会議録（案）
イ　資料２　令和２年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会
定期総会資料
ウ　資料３　令和２年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会
第１回理事会資料（抜粋）
エ　資料４　関東甲信越静社会教育研究大会東京大会
第４回実行委員会資料（抜粋）

⑵　前回議事録の確認
各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが了承された。

⑶　令和２年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会　定期総会について
本来であれば令和２年４月１８日(土)に三鷹市公会堂で開催予定としていた「令和２年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会　定期総会」が新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となり、書面決議となったため、報告する。社会教育委員８名には、事前に資料を確認いただき、議題に対する回答をいただいている。最終的に三鷹市が取りまとめを行い、

結果の通知があった。資料２は書面決議の結果となっている。

⑷　東京都市町村社会教育委員連絡協議会　第１回理事会について
令和３年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会第４回実行委員会について

事務局：　資料３は、令和２年７月１４日(火)に青梅市役所で行われた「令和２年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会 第１回理事会資料（抜粋)」、資料４は、第１回理事会の後に行われた「令和３年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会第４回実行委員会資料(抜粋)」となっている。当日は、長畑会長と事務局で出席した。

当日出席した長畑会長から報告をお願いする。

会長：　東京都市町村社会教育委員連絡協議会は都内の２９の町と市で構成されている。もちろん、都には区もあるが２３区の中で社会教育委員の集まりがあるところと無いところがあるため２３区全体としての集まりは開かれていないという現状がある。そのため、全国の県や政令指定都市でこのような集まりがあるが、東京を代表するのはこの東京都市町村社会教育連絡協議会ということになる。都市社連協は大きく５つのブロックに分かれており、それぞれのブロックごとにブロック幹事というものが輪番で決まっている。府中市は２年前にすでに務めている。それ以外に全体で会長と副会長市がついており、府中市は昨年から今年にかけて副会長、来年が会長市となっている。今年は会長市が青梅市、副会長市が府中市と昭島市となっているため今年度の協議会の会合はすべて青梅市で行われることとなっている。都市社連協は、毎年ブロックごとに研修会というものを開き、その結果を年に１回の交流大会で報告するというのが主な活動となっている。今年度の交流大会は１２月１２日に青梅市で開かれることになっている。次に、今年度のブロック研修会の予定についてであるが、新型コロナウイルスの影響でまだ決まっていない部分もあるが、ブロックごとに幹事が決まっており、府中市は第５ブロックに属するため、今回は小金井市が担当となっている。例年では他ブロックでも参加可能となっているが今年度は新型コロナウイルスの影響により、他ブロックへの参加はできないこととなっている。次に、令和２年度全国社会教育研究大会新潟大会についてであるが、期日は１１月１１日から１３日となっている。これは参加したい人は参加可能な

のか。

事務局：　社会教育委員の８名には開催要項を送付し、参加について事前に回答をもらう形となる。しかし、参加費や旅費については自己負担になるため、そこを了承いただいたうえで参加したいということであればぜひ参加をしていただきたい。

会長：　東京大会の実行委員会が青梅市で行われたため、簡単に説明させていただく。現在、大会スローガンまで決定しており、そのスローガンが「明日に向け学びの輪を広げよう！！～地域の魅力グローバル社会で再発見～」となっている。分科会については、参考キーワードを挙げているが細かいことまでは決まっていない。大会の流れとしては基本的に初日に全体会や基調講演、交流会などがあり、２日目の午前中に分科会を行うという流れになっている。来年度には府中市が会長市になり実行委員会の委員長市にもなるため、大会年度には府中市が主導となって動いていくことになる。分科会については府中市がやるのではなく、来年度のブロック幹事市が中心となって企画するということになっている。分科会は基本的には全国の中からそのテーマに沿った事例発表が出来る人を募り事例発表を行うものが２つと、大きな事例発表はないが、お互いに交流をするワークショップ形式の分科会が３つという形式になっている。

事務局：　東京大会の会場について、１日目の全体会は芸術劇場のどりーむホール、２日目の分科会については１つの施設で５つの会場を確保することが困難だったため、府中の森芸術劇場のふるさとホールと平成の間、ルミエール府中のコンベンションホール飛鳥のＡ、Ｂ、ＣＤの５つで実施予定となっている。埼玉大会の参加人数としては２日間参加しなかった人もいるため１番多く集まった全体会で約１０００人だった。

会長：　審議会の中でも今後、本来審議することに追加して東京大会について審議することも出てくると思うのでご協力をお願いしたい。

５　審議事項

⑴　第３次府中市生涯学習推進計画の具体化に向けて

長畑会長：　これからの大きなスケジュールとしては、本来予定されていた審議会が延期になった関係で９月以降は毎月開催さ

れることとなった。第３次府中市生涯学習推進計画の３つの重点施策の１つ目「新たな参加を促すための学習環境づくり」、２つ目「生涯学習と地域還元をつなげる事業の実施」、３つ目「生涯学習の広報の強化」のうちで、今年度の残りの時間は、重点施策の２つ目に関する話し合いを深め、答申を作っていくという作業を中心としたい。１つ目と３つ目の重点施策については、これまでにある程度話を進めたため、答申を作る段階でまた話し合いをしていきたい。前回の審議会で「市民一人ひとりが持っている力を、社会に還元していくこと」と定義されている府中市の「学び返し」を、「地域に住む多様な市民が、それぞれの経験や能力を活かして地域や社会のニーズに応え、課題解決に向けて活動していく」と捉えることが必要ではないかという点が確認された。すでに前年度様々な施設を回りながら小委員会を中心に話をしてきたため、今後は、大きく分けて２つの点に絞って話し合っていきたい。９月は「施設」についてである。生涯学習をしていくにあたって、市として提供できる大きなものとして施設がある。全体の中央的な機能として府中市生涯学習センターがあり、地域ごとに公民館としての機能のある文化センターがある。府中市生涯学習センターと文化センターのこれからの使い方や、施設に関わっている人たちについてなど施設に焦点をあてたい。１０月は「人」についてである。府中市には他市にはない生涯学習ファシリテーター・サポーターという制度があり、長年養成をしてきているが、前回の答申でも、今回の審議会でもあったがそれが１００％活用されているとは言い難い。そのため、ファシリテーター以外の人も含めて、「学び返し」を担う人というのをどのように活用していくのかあるいは育てていくのかについて議論したい。１１月はその中から出てきた論点や話されてなかった論点について深めていくというようにしていきたい。

　また、新型コロナウイルスの影響についても答申の中に入れる必要があるのではないか。４月の緊急事態宣言以降、我々の暮らしも大きく変わっていき、生涯学習の実際の活動も大きく変わらざるを得なかった。新型コロナウイルスが去った後に、元の生活に戻るかというとそれは難しい。そのため、この答申の中に何らかの形で今の自分たちの経験を生かした提言が少しでも出来ればと考える。そこで、今回は新型コロナウイルスの影響で生活が変わらざる

を得ない中で生涯学習というのがどんな状況になっているのか、あるいはどうなっていくべきかについて、普段の暮らしの中で感じていることを委員一人一人に話してもらいたい。

委員：　体育協会としては、今回の新型コロナウイルスの影響を大きく受けている。昨年は新型コロナウイルスの前には台風１９号の影響で市のスポーツ施設が使用できなくなり、今現在も完全には回復していない。子どもたちの体育や親子でのスポーツを通じた食育などに取り組んでいたが、３月からはすべての行事が中止となっている。スポーツを通じて市民の方々に触れあっていただく１番大きな機会である市民体育大会、都民体育大会も中止になり、それと同時に行ってきたスポーツの育成と親子の触れ合いを大事にしようと取り組んできたものも今は中止となっている。現在では、施設が再開されるという段階まで来たが、施設を利用するのにも今まで通りというわけにはいかない。これからはスポーツの行事の在り方のみならず、施設の使い方などについても改善を検討していかなければならない状況にある。新型コロナウイルスが流行する前から取り組んできた人材育成や、自分たちが培ってきたものを子どもたちやスポーツに機会が少なかった人たちへの「学び返し」の目途が現在は立っていない。

会長：　逆にこの状況において、実施することができそうなスポーツはあるか

委員：　年配の方がやっているスポーツでも、楽しんでやるには会話が必要になってしまう。体操やアスレチックなどの活動では、各施設で消毒などの対策を徹底しているが、その場所に来るのが怖いという人が多い。現在、東京都と東京都体育協会と地域の体育協会の３者で行っているジュニアスポーツ育成事業は実施の方向で進んでいるが、その中で最初に開催される陸上競技が、例年は１００人ほど集まるが、今年はまだ３０人ほどしか集まっていない状況にある。スポーツ関係は現在厳しい状況にある。

委員：　文化センターで活動をしているが、まず新型コロナウイルスの影響で変わったこととしては体温の測定と手指の消毒の徹底、また、参加人数を確認しなくてはならないため住所と電話番号を書かなくてはならなくなった。施設を利用する際にも十分に間隔を取ったり、除菌をしたりするようになった。

会長：集まり自体は減ってきているのか

委員：　減ってはいない。しかし、新型コロナウイルスの感染者数によって今後文化センターがどのようになってゆくのかが心配である。

委員：　新型コロナウイルスの事を答申に入れるということに賛成である。私は本が好きで、中央図書館をよく利用しているが新型コロナウイルスの影響で現在は予約をしなければ本を借りることができないという状況になった。図書館のいいところとしては、様々な本がある中で実際に手に取って自分で読みやすい本などを選ぶというところにある。しかし、予約をしないといけないということは本に対しての予備知識がないと予約ができないということで非常に不便だった。最近では徐々に元に戻りつつあるが、中央図書館に限らず生涯学習を行う施設について、新型コロナウイルスの感染状況によって今後どうなっていくのかなど不安なところがある。

委員：　仕事が在宅になっており、会議もオンラインで行っている。議事録等を見て思ったのは、新型コロナウイルスなどに関係なく、働いている人特に、文化センターや府中市生涯学習センターが遠くて行く機会や時間がない人たちに向けて、講座などをウェブ会議のような形でやれば、今まで参加できていなかった人たちも参加できるのではないか。また、文化センターのイベントや催しで中学校に協力してもらい、中学生に手伝いとして参加してもらうことで世代間での交流の機会をより増やしていくことができるのではないか。

委員：　広報はこのような時代においてますます大きな比重を占めてくる。新型コロナウイルスの情報に限らず、社会全体の生涯学習をどのように進めるかにあたっては今までよりもきめ細かい情報を伝達できるような形にしなければ、ますます高齢者への情報が入らなくなる。そのため、今後は、「情報」という観点においても１つのキーワードとしていくべきではないか。高齢者でスマートフォンを利用している人は少なく、家でもパソコンを使わない人が多い。情報が伝わらないとなると生涯学習だけではなく行政の滞りにもつながってしまい、それに対する行政の対応も費用等がかさんでしまうため、行政的な負荷になってしまう。そのため、高齢者に対して各文化センターでスマートフォンの講習会を無料でメーカーと提携して行い、スマートフォン

の扱いをしっかりと習得してもらう。そうすることによって、情報を受け取るのはもちろん問い合わせや発信も自ら進んでできるようになり、社会活動や生涯学習が活発になるのではないか。

委員：　中央文化センターで、自主グループとして刺繍とフラダンスをしている。新型コロナウイルスの影響で、フラダンスは全く活動出来ていない。しかし、刺繍に関してはこのような状況の中でマスクづくりをする人が増え、今まで自分では気づいていなかったが手仕事が好きだと気付き、団体へ問い合わせをしてくる人が増えた。この新型コロナウイルスをいい機会にし、自分を見つめなおして何かできるものはないか。新たに発見することでいつまで続くか分からないコロナ期間も乗り越えることができるのではないか。

委員：　多くの家庭でそうだと思うが、家計が大打撃を受けてしまっている。新型コロナウイルスが収束したとしても完全に元の生活に戻ると考えている人は少ない。新型コロナウイルスに対応し、新しいことを打ち出している企業も多くある。審議会でも新しい生活様式に対するものを盛り込んでいきたい。身近に感じることとしては、オンライン化が進み、大学の授業でも最初は滞りがあったが今ではスムーズに授業ができている。自身のことについてもオンラインで出来る事が意外と多いということに気付いた。今後は、施設からの情報発信についても双方のオンライン化を進めていかざるを得なくなるのでないか。また、働いている人の健康確保も当面は重要な問題になる。八王子市の図書館ではデジタル書籍の貸出しも行っている。落ち込んでばかりいても仕方がないので、このような新しい生活様式になじむ、前向きな施策をしていければいいと考える。

委員：　コミュニティ活動は大打撃を受けた。ほとんどのコミュニティ活動ができなくなってしまい、リモートで会議なども行っていたが、コミュニティ活動はリモートでは難しい。このコロナの影響で、大小にかかわらず様々な地域のつながりを担う集まりができなくなってしまっている。新たな地域のつながりのあり方を構築していく段階にあるのではないか。以前から、コミュニティスキルやデジタルリテラシーは今後、大切になってくるため、これらを生涯学習のプログラムの中に取り入れてはどうかと提案をしてきたが、そのことをこのコロナ禍でますます感じている。例えば、デジタルとアナログのハイブリッドネットワークを編み出

し、それを基に人のつながりや地域のつながりを維持できるようにしていきたい。

委員：　会場が徐々に使えるようになったが、活動しようにも大人数で集まるのが怖い、電車にも乗りたくないなどの声がある。文化団体には高齢者の多い団体もあるため、より注意が必要になる。自身が所属している団体も４か月ほど活動ができていない。運営に携わっているメンバーは、ウェブ会議で今後どうしていくか話し合っている。集まらずにウェブで会議をできることが一番だが、ウェブ会議などのやり方がわからない人が多いため、先ほど話が出ていた高齢者向けの講習会には賛成である。ただ、興味がある人というのはすでにそのような行動を始めているのではないか。そのため、興味がない人に参加しようと思ってもらえるような広報の仕方を考えていく必要がある。新型コロナウイルスが今年で終わるとは限らない。子どもたちのための伝統文化の教室も行っているため、これから普段の活動について各文化団体でどのような活動ならできるかという点について話し合っていきたい。

委員：　コロナ禍は、治療薬ができワクチンができるまで収束せず、１～２年はかかると思っている。悠学の会は、府中市生涯学習センターで活動している。ここは４月から６月１４日まで閉館していたが、１５日から一部施設の利用が再開された。再開後は自宅で体温を測り、府中市生涯学習センターに入る際に、入り口で手指を消毒して会議室に入るようになっている。施設の利用人数が定員の半数に制限されていることで、いつもの会議室が使えず困っている。そんな中でパソコングループの定例会は Teams を使いウェブ会議で開催している。ご参考として、コロナ禍のなか、７月に悠学の会がウェブサイトを新しく立ち上げたのでぜひご覧いただきたい。ＵＲＬは、http://yuugaku.tokyo となっている。

委員：　このコロナ禍で、つながりという見えない力が大きな役割果たしていたのだなと感じた。やはり、人間はつながりの場を持てなくなるということが一番怖いことである。近所の人と少しでもいいから顔を合わせて話すことも大切ではないか。また、新型コロナウイルスへの対策についても個人差が大きく、人の考え方というのは様々だなと感じた。コロナ禍で自分を見つめなおす期間と捉えるのはもちろん、今までの様態を変革していくチャンスであると捉えること

ができれば、この新型コロナウイルスも乗り越えられるのではないか。

委員：　学校関係についてお話をさせていただく。朝の登校前に児童も職員も自宅で体温を測り、健康観察表というものに体温を記入し、それを持ちマスクを着けて登校をする。校舎に入る際にも、感染防止のため間隔をあけて並び手指の消毒をして校舎に入るようにしている。教室も今までは机が隣同士でくっついていたが、今は１人１人離れている。理科の実験や図工などの対面式の授業については、ついたてを立てるなど対策をしながら行っている。また、給食については、以前は５・６人のグループでしゃべりながら食べていたが、現在は全員が前を向いてしゃべらずに食べるというようになっている。徐々に活動が再開されていく中で、感染防止のためにはどのような対策をしていけば良いかを教職員で話し合っている。防災の避難所開設について、府中市のマニュアルが改善され、地震の避難に加えて水害の避難も必要になった。さらにそれに加えてコロナの対応もしていかなければならない。そのため、今までの体育館だけでは避難民の方が入れないという懸念もある。今後は、避難所の拡充もしていくべきである。また、市の様々なイベントが中止になってしまっているため、地域で子どもを育てていくということが難しいという状況にある。また、学校だよりも各地域への回覧ができないため、４月号からたまってしまっている。マスクの着用について、これから暑くなっていく中で熱中症対策も必要になってくる。文部科学省のマニュアルでは、熱中症対策は新型コロナウイルス対策よりも優先されるとあるが、マスクの着用については市民の方からの意見が多くある。そのため、市民の方々にも理解を得ることができるような周知の方法を現在模索中である。

副会長：　コロナ禍でオンライン化が進み、大学もオンラインでの講義になった。オンラインの講義は知識の吸収という面においてはできるが、知識を知恵に変換していくことや学習を通じて得る経験が画面越しにしかないのでそういった点においての学習が進まないのではないかと感じた。地域の再構成という点においては小委員会で議論をしてきたが、今回のコロナ禍で意識が高まってきたように思える。皆さんの話を聞いて思ったのは、情報基盤というものに関しては十分に整っているため、今後はインセンティブを与える

ような企画が必要なのではないか。デジタルの考え方を単に情報を受け取るものということではなく、情報を発信することで地域内での役割を果たすことができるというような、自助・共助という観点から地域再生を図っていくために、受動的なものではなく能動的に参加してくれるような企画をすることで地域活性化につながるのではないか。

委員：　事務局では、現在このコロナ禍でどのような対応をしているのか

事務局：　府中市生涯学習センターには、学習施設と体育施設がある。対策を徹底し利用再開しているが、市民からはどうして施設を開けないのかという声がある一方で、施設を開けてしまうと人が集まってしまうため開けないでほしいという声もあり、様々な考え方や意見があると感じた。今後新しい生活様式ということで、施設の利用方法も以前とは変わっていくが、その点についても市民にどのように周知し納得してもらうかを考えていくことも今後の役目と考えている。その際には、皆さんの知恵もお借りしたい。

会長：　このような状況だからこそ、一人一人の感じ方や考え方の違いが顕著に表れるため、意見や行動に差が生まれてしまう。生涯学習の、人はお互いに学びあうことができ、学びあったところで新しい行動に移すことができるという原点は、新型コロナウイルスの中でも変わらないものである。この原点を新しい生活様式でどのように実現していくのかを考えていきたい。

６　その他

⑴　次回の開催について

出席委員の都合を挙手にて確認し、事前に確認した欠席委員の都合と調整し、９月３０日（水）午前１０時～１２時で開催することが決定した。